



東海第二発電所からのお知らせ

平成27年6月
日本原子力発電株式会社

原子力規制委員会の審査会合において、発電所敷地周辺および近傍の地質や断層等の有無について、調査データに基づく評価結果を詳しく説明しました。



〈平成27年2月13日の審査会合で当社が説明した内容〉

○評価結果

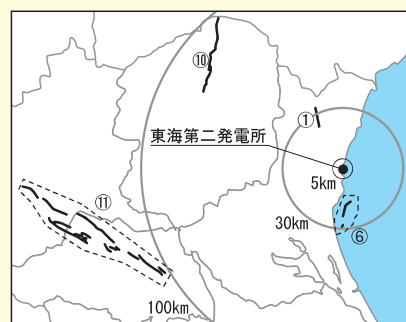
- (1) 敷地を中心とする半径5kmの範囲において、「活断層と認定される断層」はありませんでした。
- (2) 下記の要件に該当する敷地周辺および近傍の断層(①～⑪)を、安全評価上、耐震設計において考慮することとしました。

- ・断層を覆う地層の年代を特定し、12～13万年前から現在までの活動が明確に否定できないもの。
- ・断層近傍で、地震が集中して発生しているもの。
- ・さらに、近いものは同時活動を考慮して、つないで評価する。

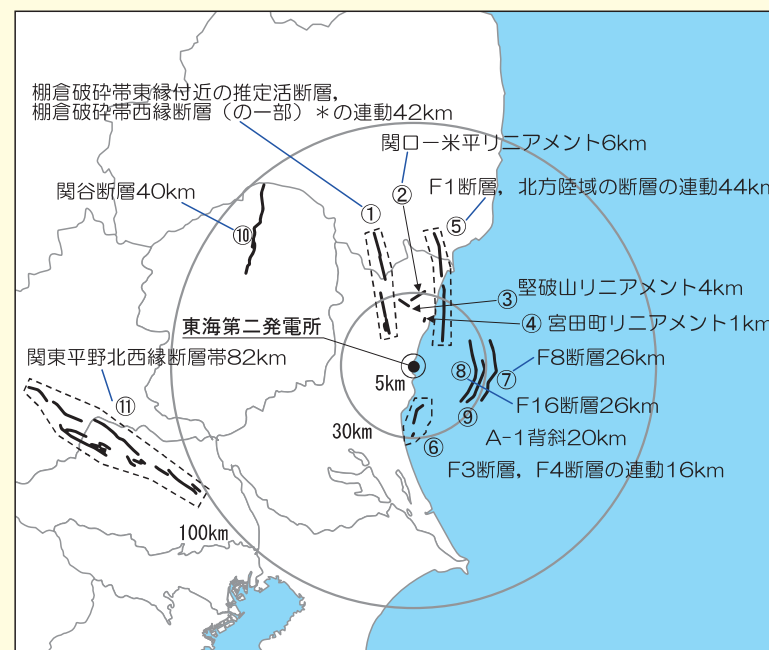
トレンチ(断層などを調べるために掘った溝)調査等の様子



(新規規制基準施行前の評価)



(新規規制基準に基づく評価)



*中染付近・西染付近のリニアメントを含む。
※変動地形の可能性のある地形を「リニアメント」という。
断層の同時活動を考慮した場合は「連動」と記す。

審査会合におけるご意見

審査会合において、「棚倉破砕帯東縁付近の推定活断層、棚倉破砕帯西縁断層の南端・北端の地質性状について、さらに情報を確認したい」とのご意見をいただきました。このご意見への対応を行うとともに、継続して適合性確認審査に適切かつ積極的に対応してまいります。



審査会合の様子
(原子力規制委員会ホームページより)

新規規制基準における
断層等の考え方

活断層と認定される断層

12～13万年前
から現在までに
活動があったもの



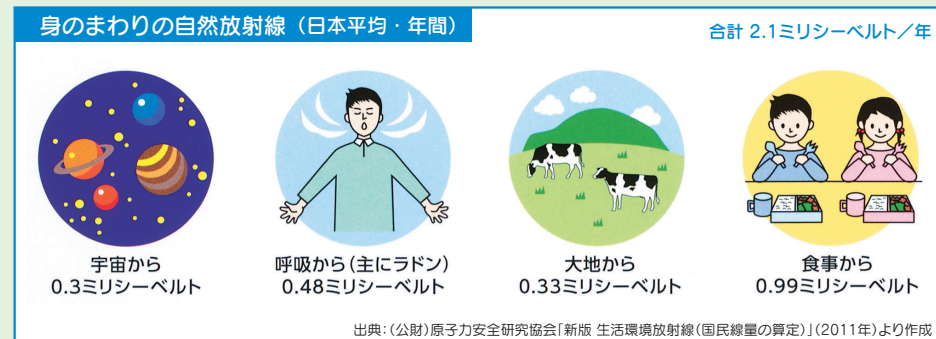
東北地方太平洋沖地震の
知見を反映

シリーズ◆放射線◆（その2）



① 私たちは毎日の暮らしの中で、自然に存在するさまざまな放射線を受けています。

私たちは宇宙から放射線を受けています。また、大地の中にもともと含まれている放射性物質からも放射線が出ています。その他にも、空気や飲み物、食べ物の中にも自然の放射性物質が含まれています。



出典：お母さんの「？」に答えるたいせつな放射線の話（日本原子力文化財団）

② 食べ物にも自然に存在する放射性物質が含まれています。

私たちは摂取する食べ物に含まれている自然の放射性物質から、年間平均約0.99ミリシーベルトの放射線を受けており、主な放射性物質はカリウム40などです。

カリウムは、私たちの健康を保つために必要不可欠な栄養素のひとつです。食べ物の摂取を通じて、私たちはカリウム40を平均約4,000ベクレル体内に取り込み、年間平均約0.2ミリシーベルトの放射線を受けています。

体内、食物中の自然放射性物質



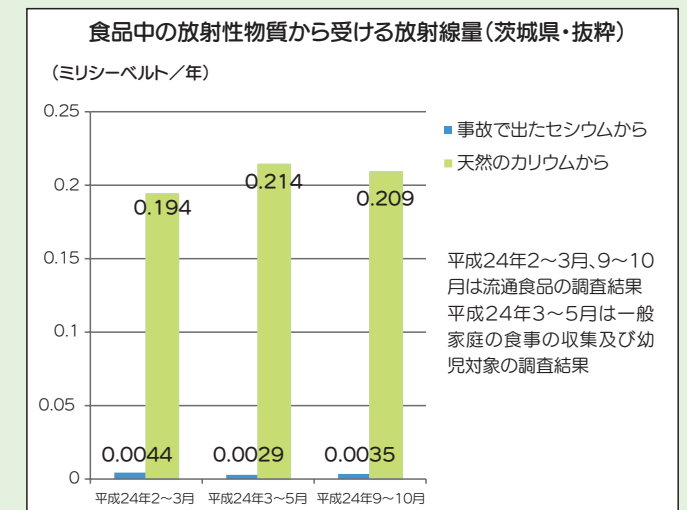
出典：放射線Q & A（電気事業連合会）

③ 厳しい安全基準を満たし、流通している食べ物を食べ続けた場合でも、受ける放射線の量はごくわずかです。

日本では厚生労働省により、食品に含まれる放射性物質からの被ばく線量の上限は、年間1ミリシーベルトとされています。この値は、食品の国際規格を作成しているコーデックス委員会の指標を参考にしています。

国の調査によると、平成24年以降に実際に流通している食品や一般家庭で調理された食事を検査し、含まれていた放射性セシウムから、その食品を1年間食べたときに受ける線量を評価したところ、下図のとおり0.01ミリシーベルトを下回っていました。

これは、自然の放射性物質（カリウム40）の摂取による線量（約0.2ミリシーベルト）と比べても少量であり、健康に影響が生じる量ではないといえます。



出典：厚生労働省及び消費者庁ホームページ



東海テラパークからのお知らせ



東海テラパークでは、安全対策の状況や訓練の様子など、各種パネルやビデオで紹介しております。是非お越しください。

展示物などのご案内

- ギャラリー
6月3日(水)～6月30日(火)
とうもろこし人形展



所在地 那珂郡東海村白方1-1
電話 029-287-1252
開館時間 9時～16時30分
入館料 無料
休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）および年末年始（12/29～1/3）

お問い合わせ窓口
土日祝日を除く 9時～17時



日本原子力発電株式会社

茨城総合事務所 茨城県水戸市笠原町978-25 TEL:029-301-1511
東海事務所 茨城県那珂郡東海村白方1-1 TEL:029-287-1250

当社ホームページ 原 電 検索
<http://www.japc.co.jp/>